

あなたと、コンビニに、

FamilyMart

株式会社ファミリーマート

「あなたと、コンビニに、ファミリーマート」の企業スローガンで知られる株式会社ファミリーマートは、すべての都道府県に店舗を持ち、国内の店舗数は10,000店を突破。東アジア、東南アジア地域でも幅広くフランチャイズ展開を行っています。

本社：東京都豊島区東池袋三丁目1番1号

設立：1981年9月1日

従業員数：3,364名（2013年2月末）

URL：http://www.family.co.jp/

（取材日：2013年12月）

POINT

追加コストをかけることなく
対象ユーザを増やし、
非定型分析の利用を拡大

情報分析に要する時間を大幅に
削減し、業務効率を向上

使いやすいユーザインターフェイスの
情報活用環境を整備

POSデータの情報分析システムを再構築 WebFOCUSのInfoAssistの非定型分析で コンビニエンスストアの店舗経営に活用

コンビニエンスストア事業の生命線といえるPOSデータの情報分析システムを10年ぶりに再構築することを決断。非定型分析システムのベースとなるBIツールのリプレースをWebFOCUSで実現し、300名が品揃えや商品調達の施策立案に活用しています。

課題

対策

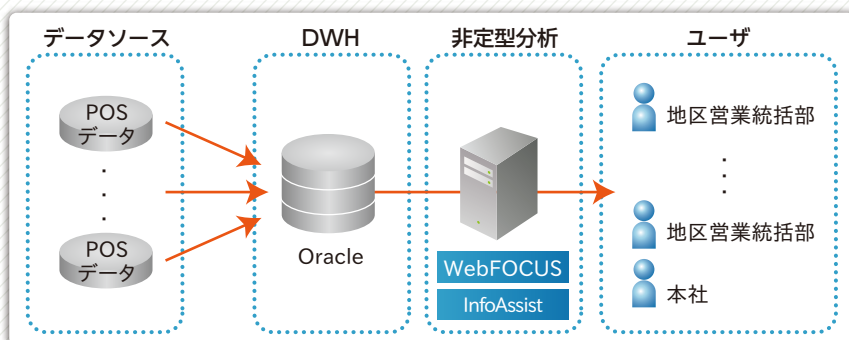
効果

- 利用開始後10年を経過した従来の情報分析システムの潜在リスクが増加
- 製品のライセンス体系がネックとなり、利用ユーザを増やしたいのに増やせない
- システムの改善要求への対応は外部依頼のため、ユーザの要求に柔軟に対応できない

総合的に評価した結果、WebFOCUSの自由検索機能InfoAssistを採用。

- 「情報分析システム 3.0」としてシステムを新たに再構築
- 非定型分析システムは、ベースとなるパッケージ製品をリプレース

- 当初200名だったユーザを追加コストをかけずに300名まで増加
- 1日7時間を要していたデータ抽出を1時間に短縮
- ユーザ間で有益なレポートを容易に共有
- 情報システム部門のシステム管理負荷が軽減



WebFOCUS

10年活用してきた 情報分析システムをリプレース

ファミリーマートでは、早くから「情報分析システム」と呼ばれるPOSデータの分析システムを導入し、データから得られた知見を商品開発や店舗の商品揃えに活かしてきました。

「情報分析システム」には、定型分析システム、非定型分析システムの2種類があります。定型分析システムは、売上データを地域別、商品分野別など、一定の角度から見るもので、前年対比などが容易にわかります。一方、非定型分析システムは、地域限定商品やコラボ商品、店舗独自のイベントや地域の行事に合わせた品揃えなど、イレギュラーな形でデータを分析したいときに利用します。それらは主に各地域の地区営業統括部のスタッフが利用していました。

どちらのシステムも導入10年目を迎えた2012年には、稼働そのものに問題はありませんでした。ハードウェアの保守期限切れが迫っていました。また、分析を担っていたソフトウェアも製品コンセプトが一新され、追加ライセンスの購入ができない状態でした。

このままでは従来システムの潜在リスクが高いため、システムの再構築を決定。「情報分析システム3.0」と名づけられた次世代システム構築プロジェクトがスタートしました。

操作の容易性、ライセンス体系、 運用コストなどを総合判断して WebFOCUSを選択

定型分析システムは以前からスクラッチ開発で行なっており、今回もそれを踏襲することになりました。非定型分析システムは、以前採用していたパッケージ製品のコンセプトが大きく変わってしまったため追加ライセンスの購入ができなくなり、今回新たに製品選定をすることになりました。選定にあたり、5つの要件を挙げました。

1. インストールや更新が容易なWebアプリケーションシステムであること
2. ライセンス体系がユーザベースでないこと
3. 2次加工に備え、MS-Excelにデータが抽出しやすいこと
4. 従来ツールとユーザインターフェースに大きな乖離がなく、使いやすいこと
5. 活用しながら社内で機能改善しやすいこと

これらの要件をクリアしたのが、WebFOCUSの自由検索機能のInfoAssistでした。

システム本部 システム統括部 システム統括グループ 小沼仁氏は、次のように語ります。

小沼氏 展示会などに出かけて幅広く情報収集しましたが、初期コスト、ランニングコストを含め、トータルに考えてこれがいいと思ったのがWebFOCUSでした。BIツールはかなり多機能化が進んでおり、なんでもできるけれども操作が難しいという傾向にあります。当社の情報分析システム利用者は、分析リテラシーにも個人によって幅があります。パワーユーザだけが満足してもだめなのです。その点、WebFOCUSはシンプルな操作性で、誰にも使いやすい印象を受けました。



小沼仁氏

構築プロセスで ハブの役割を担うアシスト

システム構築は2012年8月にスタート。途中、技術的な課題も浮上しましたが、アシストが開発元のInformation Builders社と密接に連携して問題解決へと導きました。また、アシストは、システムインテグレータである伊藤忠テクノソリューションズ株式会社とも良好なコミュニケーションを保ち、プロジェクトのスケジュールどおりの進行を支援しました。新システムは2013年6月に本稼働しました。分析スピードをさらに向上させるため、データベースも一新し、検索処理の高速化も実現しました。

ユーザは、本社の本部スタッフや地区営業統括部のスタッフなど約200名です。ユーザ向けの研修は一度開催しただけで問い合わせもほとんどなく、新システムは軌道に乗りました。新システムには天気や気温の情報がすべて入っているため、天候の変化を見ながら季節商品の品揃えを検討したり、祭事に対応した商品をどう調達するか、といった地域特性に応じた施策立案や分析が日々行われています。

利用ユーザは増加、 情報検索時間は減少

WebFOCUSによる非定型分析システムの導入によりもたらされた効果は、大きく3つあります。

まずは、CPUベースのライセンス体系のため、追加費用をかけずにユーザを増やせるようになりました。導入から半年、利用ユーザは当初の200名から

300名に増加しています。これは、本社の本部スタッフ間で新システムの利用が拡大されたことによるものです。

次に、情報検索／分析に要する時間が削減されました。従来は、1日のうち7時間をデータ抽出と分析にかけていましたが、今では1時間程度にまで削減され、従来と同じだけの知見を短い時間で得ています。

そして、レポートの共有化が進みました。情報分析もチームワークが重要で、複数名で有用なレポートを活用できれば、業務を効率的に遂行することができます。

その他にも、Webアプリケーション化したことで、システムのメンテナンスや改善対応に関するシステム本部の業務負担軽減が実現しました。

システム開発部 基盤システム開発グループ マネージャー 伊藤秀氏は、今回の新システム導入を次のように評価します。

伊藤氏 当社は出店攻勢を加速しており、こうした情報分析システムは、ますます必要不可欠なものになってきています。スピーディかつわかりやすくデータ分析が行えるようになったことに喜んでいますが、現状に満足することなく、引き続きご支援いただければと思います。



伊藤秀氏

情報分析は、コンビニエンスストア事業の鍵を握る生命線であり、今後はデータ分析範囲の拡大やモバイルデバイスの有効活用など、更なる情報活用を推進していく予定です。



お問い合わせは **株式会社アシスト**

URL <http://www.ashisuto.co.jp/product/category/bi/webfocus/> E-Mail ibi@ashisuto.co.jp

東京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷東急ビル
札幌 〒060-0808 札幌市北区北8条西4-1-1 パストラルビルN8 5F
仙台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア 19F
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F
金沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ボルテ金沢 8F

TEL:03-5276-3653
TEL:011-746-8484
TEL:022-713-5802
TEL:052-232-8211
TEL:076-260-4921

大阪 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 13F
広島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル 3F
福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑業通ビル 9F
沖縄 〒900-0014 那覇市松尾1-10-24 ホークシティ那覇ビル4F

TEL:06-6373-7113
TEL:082-224-6170
TEL:092-481-7156
TEL:098-943-2276